

サポート通信

平成28年11月28日 発行
広島市立広島特別支援学校

No. 14

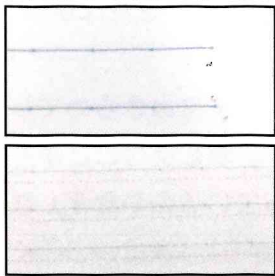


特別支援教育センター校からの情報発信・ネットワーク

■ サポートセンターだより

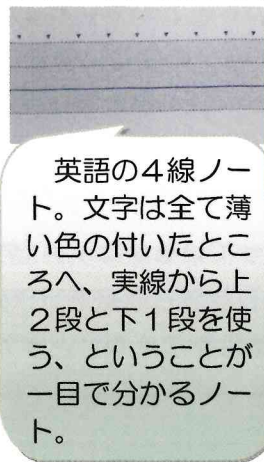
◆アイデア文具の紹介◆

文字のバランスが取りにくいなど書字が苦手なお子さんに、少しでも楽に書く工夫ができれば、と思うことはありませんか。今回は、アイデア文具を紹介します。目の前のお子さんに合わせて文具を選んだり、商品のアイデアを自作の教材に生かしたりしてみてもいいでしょうか。



KOKUYO Campus
(上) 10mm×21
行 (下) 7.7mm×27
行

10mm と幅広のタイプ、1文字の大きさの目安のドット入り、さらに書いた後の読みやすさを考慮した余白部分のラインが入ったノートもあります。



英語の4線ノート。文字は全て薄い色の付いたところへ、実線から上2段と下1段を使う、ということが一目で分かるノート。

RISE
English
notebook
NPO 法人リ
ヴォルブ学校
教育研究所

RISE
English
Notebook

ちょっと太目の芯で折れにくい鉛筆シャープ。全体が滑り止め加工してあり、三角柱で手にフィット。ノック部は紛失防止で外れない設計。



KOKUYO
鉛筆シャープ
P0.7mm

◆この冬お勧めの研修会◆

今、目の前にいる子どもの“分かった”を目指したワークショップ

日時：平成28年12月4日（日）10:20～16:00 会場：広島大学中央図書館ライブラリーホール

実践報告・演習：“分かった”を目指す支援の考え方と実際、教材作成

講師：島根県松江市意東小学校教諭 井上 賞子先生
広島大学教育学部 准教授 竹林地 毅先生

参加費：2000円 ※ 申込みが必要です

※ 詳細はHPで labo-tchikurinji.jp

読みや書きに困難のある子どものための教材展示、アナログ、デジタル両方で教材づくりの演習等、てんこ盛りの内容となっています！

平成28年度広島県情緒障害教育研究大会

日時：平成29年2月18日（土）10:30～16:00

会場：広島県情報プラザ（中区千田町3-7-47）

講演：「発達障害のある学生への支援」 講師：信州大学教育学部 教授 高橋 知音先生

実践報告：「高等学校における校内での特別支援教育の取組」

報告者：広島県立広島国泰寺高等学校 教諭 寺岡 佳子先生、養護教諭 村上 幸代先生

参加費：2000円 申込締め切り：12月19日 申込方法：FAX：082-822-4634

問合せ：tao-ka18@edu.city.hiroshima.jp 事務局（広島市立船越小学校内） 埴 香織里

高橋先生からは、学生本人の自立に向けて多くのヒントをいただけたと思います。また、国泰寺高等学校からは、特別支援教育の具体的な取組の報告があります。理論と実践、幼・小・中・高と、校種を問わない充実した内容となっています！

■ タブレット端末を通してのやりとり指導

A児は、伝えたい気持ちは強いのですが、発声は不明瞭です。昨年度の実践では、事務室や保健室へ一人でお遣いに行き、指定された物を伝えもらってくる活動を行いました。その際に使用したのが、Drop Talk HD (有料版) です。このアプリでは、タブレット端末 (以下：タブレット) 写真と音声セットにしたシンボルを作成することができます。お遣いの活動を通して、自分の欲しい物が人に伝わる経験や一人でお遣いに行けたことへの達成感を感じていました。今年度は、学習課題を行いながら友達に対して自分の欲しい物を伝えるという学習を行っています。課題をやり終えるために必要なカードが、自分のボックスの中にはなく (図1)、B児のボックスの中に入っています。初めは、言葉や課題そのものをB児に見せて伝えようとしていましたが、A児の意図が友達にはなかなか伝わりませんでした。そこで、DropTalk の出番です (図2) (図3)。それによって不明瞭だった音声やイメージがB児に伝わり、B児はA児が指定したカードを手渡すことができました。またB児の言葉を受けて、A児は自分のボックスから探すなど、学習場面でのやりとりが成立していきました。(図4) 現在A児は、学習内のB児とのやりとりだけでなく「ヒントカード (図5)」を見ながら、教師、友達を含めた5人に対して自分の欲しい物を伝え、もらう学習を行っています。

A児が発声で伝えていた際には、「自分の言葉は、友達に伝わらないから。」とすぐにあきらめてしまうという姿が見られましたが、タブレットを使えばどの人にも伝わるという経験を積むことができました。また「〇〇のカードがありますか?」「持ってないよ。他の人が持っているのかな?」などの言葉を受けて、「んー誰が持っているかな?」(タブレットをスワイプしながら)「次は、〇〇くんに聞いてみよう。」など思考をしながら取組を行う姿が見られるようになりました。(図6)

タブレットを使って、自分の意思を伝えることができるようになったことは、思考の機会を増やし、学習への意欲の向上につながっていると感じています。



図1 カードを探すA児



図2 A児からB児へ



図3 シンボル画面



図4 B児からA児へ



図5 ヒントカード



図8 思考するA児

■ 夏のサポートセンター研修報告

8月9日、10日にサポートセンター研修がありました。今年度は、田中ビネーVを基礎編と実践編の2日間に分けて研修して行きました。

1日目の基礎編では、「田中ビネー知能検査V」の構成の概要、検査項目と実施の仕方を知ることをねらいに講義や年齢級別のグループでの演習の実施を行いました。

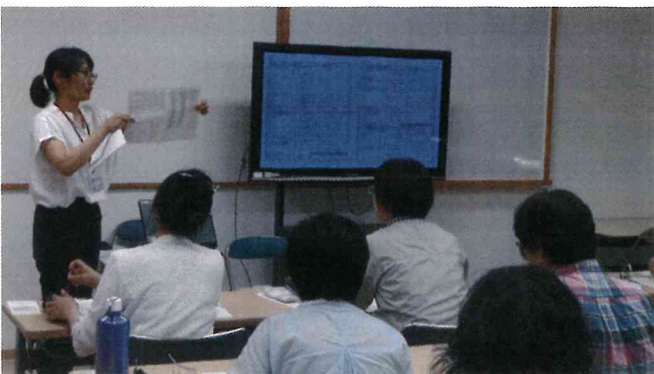
2日目の実践編では、3グループ別で実際の児童を想定した被験者を相手に、参加者の先生方に検査実施（3歳級～6歳級）をしていただきました。検査実施するだけでなく、グループの皆さんで検査の集計、下位検査の合否や検査時の行動などから、児童の得意不得意や実際に学級にいたら、どのような支援が必要となるのかまで深く見取りをしました。その後、3グループでの話し合いを交流することで、IQが同じでも合格している下位検査が違うこと、取り組み方や行動の様子が違うことが分かり、検査結果の数値が全てではないと実感していただくことができました。

来年度も、「あなたの眼から見える世界は、あなた次第で変化する」をモットーに、より日々の実践に生かせる研修をしていきたいと思えます。今後ともサポートセンター研修をよろしく願います。

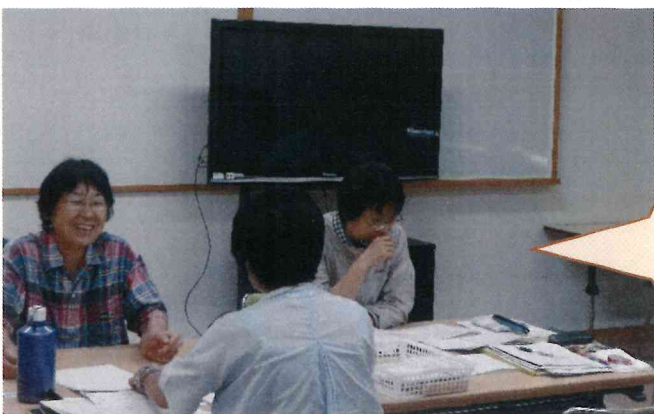
田中ビネー知能検査Vとは・・・

☆「暦年齢に対してどのくらい発達しているか」「どんなことができ、どんなことができていないか」を知ることができ、必要な指導や支援を考えるためのヒントになります。

☆適応年齢は2歳～成人。検査問題は1歳級（1歳の子の50%ができる）～成人級で構成され、1歳級を満たさない子どものための指標となる「発達チェック」という項目もあります。



↑1日目、講義の様子



↑2日目、検査集計、見取り、分析の様子

↓2日目、検査実施の様子

参加者全員が各年齢級を担当し、検査実施をしました！



「この下位検査の結果を見ると…」
「難しい課題のときは…」
など、検査実施をすることで活発な話し合いが行われました！

■ おすすめ書籍



「通常学級での特別支援教育のスタンダード」
東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会
著者：小貫 悟
東京書籍 定価本体 各2800円（税別）

この本は、東京都日野市が行ってきた特別支援教育への取り組みのまとめであり、小中学校の通常の学級で実際に行う特別支援教育の内容と基準を具体的に示した手引書です。「誰にでもできる」特別支援教育に必要なスタンダードが示されています。一つの市の小学校、中学校の約650名の教師の実践から生まれた本です。

市が考えた特別支援教育における『(子どもを)包み込むモデル』に基づいて、「個別的配慮」「授業での指導方法」「学級環境」「学校環境」「地域環境」の各側面に対するチェックリストが示され、学級担任、教科担任、コーディネーター、校内委員会、管理職、行政等それぞれの立場でアセスメントができるようになっています。そのチェックリストの項目が意味するところを詳しく説明した①解説文、子どもたちとの出会い、教育上の工夫や思いの詰まった各実践者から寄せられた②コラム、実際に学校で行われた③ユニバーサルデザインの工夫・実践例の三つの柱でこの本が構成されています。したがって、この本は、アセスメントであり、解説書であり、すぐに役立つ実践書であると同時に随所にほのぼのとしたエピソードもちりばめられた読み物にもなっています。実践例は写真、表、絵などで具体的に示され大変分かりやすく、読み手のニーズに合わせどの章から読めばよいか「読み進めモデル」も示されるなど工夫や配慮のされた優しい本です。

■ 編集後記

夏季、サポートセンターで行われた田中ビネーの研修会、今年もおかげさまでみのりあるものとなりました。御来校いただきました先生方、ありがとうございました。さて編集後記を執筆中の今、本校では文化祭の準備に向けて大いに盛り上がっています。エネルギーにあふれた子どもたち。その輝く瞳のために日々共に頑張りましょう！

■ 記事に関するお問い合わせ

広島市立広島特別支援学校
〒734-0013 広島市南区出島四丁目1番1号
TEL (082) 250-7101 FAX (082) 250-7102
担当 特別支援教育コーディネーター 林 美香子
MAIL: yougo-s@e.city.hiroshima.jp

